

## 第 28 回 前漢の武帝

### 1 前漢の最盛期

- ・（ ）の鎮圧により、前漢では中央集権体制が確立された。  
→対外進出をはかり、大規模な遠征を盛んに行った。



武帝

彼の時代は前漢の全盛期であるが、衰退が始まった時期でもある。

- ◆（ ）（在位 前 141～前 87 年）
  - ・北方の（ ）を挟み撃ちにするため、西方の（ ）との同盟をねらい、（ ）を使者として送った。  
→同盟は失敗したが、（ ）の情報が明らかになってきた。  
→張騫の情報をもとにして、（ ）を手に入れるため、大宛（フェルガナ）に李広利を派遣した。

#### <武帝の対外征服>

- ・匈奴に対しては、将軍の衛青と霍去病を派遣し、積極的な攻撃を行った。  
→これは成功し、河西回廊と呼ばれるオアシス地帯に河西 4 郡を新しく置いた。  
※河西 4 郡の西端が（ ）。
- ・朝鮮半島で衛満が建てた（ ）を滅ぼし、朝鮮 4 郡を新しく置いた。  
※（ ）・真番郡・臨屯郡・玄菟郡の 4 郡
- ・中国南部からベトナム北部を支配していた（ ）を滅ぼして、南海郡・交趾郡・日南郡など 9 郡を新しく置いた。  
→広くなった領土に役人を送るため、地方の推薦によって人材を登用する、（ ）という制度を始めた。



張騫

元々は宮廷の門番のような仕事をしてきた下級役人だった。使者に立候補し、ようやく帰国できたのは 13 年後のことだった。



汗血馬

一日千里を走り、血のように赤い汗を流すことからこの名がついた。『三国志』の赤兔馬のモデルとされている。



霍去病

衛青のおいにあたる。衛青の姉が武帝の夫人となったおかげで、出世を遂げていった。天才肌の将軍だったが、24 歳の若さで病死した。

## 2 武帝時代の社会

- 武帝の時代、前漢は多くの領土を獲得したが、その一方でたびかさなる大遠征は、深刻な財政難をもたらした。  
→武帝は、いくつかの財政再建策を出した。



五銖銭  
武帝の時代から、  
唐の時代まで使  
用された。

- (1) 生活必需品である ( )・( )・( ) を国の専売にした。
- (2) 新しく ( ) という貨幣を発行した。
- (3) ( )・( ) という政策を行った。

※これには物価の調整や抑制という側面があった。

### <武帝時代の学者>

- ( ) … ( ) の歴史書である『 』を書いた。  
( ) … ( ) を国の公式の学問とすることを提案した(官学化)。

→儒学(儒教)のテキストとして五経が定められた。

※『春秋』・『詩経』・『書経』・『易経』・『礼記』

→五経の解釈と教授のため( ) という官職が置かれた。



司馬遷

世界史上、最も偉大な歴史家のひとり。死刑宣告を受けて、それを免れるために恥をしのいで宦官となり、『史記』を完成させた。



マンガ『史記』

横山光輝が『史記』をマンガ化している。読んでおくと漢文で凄く役に立ちます。学校の図書室に全巻揃っています。



董仲舒

郷挙里選を提案したのもこの人とされる。非常にマジメな学者タイプの人で、名声があがっても学問以外には興味を示さなかった。

## 3 前漢の滅亡と新の建国

- 武帝の財政再建策によっても、財政難の根本的な解決はできなかった。
- 地方では、中小農民が没落して小作人や奴婢となる一方で、彼らを使役する大土地所有者の( )が勢いを伸ばした。
- 中央でも( )や( )が政治を支配していった。

- 前漢の政治は腐敗し、地方も中央の命令を聞かなくなっていた。
- 豪族をおさえるため大土地所有を制限する限田策を出したが、実施できなかった。

☆ ( ) (8~23年)

都…長安

◆ ( ) (在位 8~23年)

- 外戚で儒学者でもあった王莽は、讖緯思想などを利用して前漢の皇帝から帝位を篡奪し、新を建国した。
- 国の制度を、いきなり千年前の周の時代に戻そうとして大混乱になった。  
→農民たちが( )を起こして、新は滅亡した。



王莽

マジメすぎたのか、それとも究極の偽善者か。いいキャラである。